

『質的心理学フォーラム』編集委員会企画シンポジウム

立場を異にする者同士のかかわりの質的研究

企画者：平本毅
谷美奈
川島理恵
発表者：五十嵐素子（北海学園大学）
高梨克也（京都大学）
岩隈美穂（京都大学）
谷美奈（帝塚山大学）
平本毅（京都大学）
司会者：川島理恵

企画趣旨：

わたしたちは、たいいていの日常の出来事を経験するにあたって、自分とは立場を異にする人々と交わる。通勤電車の中で高齢者や妊婦に席を譲り、駅からの途上で立ち寄ったコンビニエンスストアでは店員と言葉を交わし、職場では上司や部下と共に働き、喫茶店で取引先の社員と打ち合わせ、帰宅すれば家族の誰かを相手に仕事の愚痴をこぼす、といったように。一方で、こうした立場を異にする人同士の関係を調整したり、間をとりもったりすることが、しばしば解決すべき社会問題として世間に認識される。移民の受け入れ体制の整備が議論されたり、多世代交流型の住宅が注目を浴びたり、女性専用車両が作られたり、といった具合である。本シンポジウムでは、研究あるいは実践上「立場を異にする者同士のかかわり」に携わっている研究者を集めることを通じて、これに適切な「質的な」一記述を与える。「教師-生徒」「医療ボランティア~医療従事者」「多職種混合チームにおける職種間」などの「立場の違い」や、そうした「立場を異にする」人々の間をつなぐ「居場所」などの実践の事例が報告され、議論が行われる。議論の焦点となるのは、①「立場を異にする者同士のかかわり」はどのように行われているか、②「立場を異にする者同士のかかわり」を生じさせる活動にはどのようなものがあるか、③「立場を異にする者同士のかかわり」からどんな価値が生じるのか、の三点である。この議論の積み重ねを通じて、現代社会における人々の「立場の違い」をめぐる実践の一端に輪郭を与えることが、シンポジウムの目的となる。また、「立場を異にする者同士のかかわり」を記述するにあたってどの方法が適するか、方法論の議論も行う。

「何をどう学ぶか」をデザインするためのエスノメソドロジー研究の視点
——「対話的な学び」はいかに「立場の違い」を通じて生まれるのか

五十嵐素子（北海学園大学）

発表者は、社会学の理論であり質的研究方法の一つであるエスノメソドロジーを専門とし、学校教育における学習活動の成り立ち方について関心を持ってきた。本発表では、まずはエスノメソドロジー研究の立場から、学習活動の成り立ちかたを理解するための視点として「学習課題を遂行する主体」を誰に設定しているのか、また学習活動における「生徒の役割行為」がどのように配分されているのか、という視点を紹介する。またこれらの視点を踏まえ、いかなる教育的ねらいのもとで「立場の違い」が生じており、またそこで新学習指

導要領で目指されている学びの側面である「対話的学び」がどのように生み出されているのかを検討し、学習活動のデザインに関してより理解を深めることを試みたい。

多職種チームにおける協働のための工夫と困難
—日本科学未来館展示制作チームのフィールド調査から

高梨克也（京都大学）

「立場を異にする者同士のかかわり」の事例として、科学館における展示制作のための多職種チームを対象としたフィールド調査を紹介する。多職種チームは「諸刃の剣」である。一方で均質なメンバーだけでは達成できないであろう目標を達成できる可能性が期待されるものの、他方では異なる背景や価値観をもつメンバー間でのコンフリクトやディスコミュニケーションなども生じやすい。そのため、今回の多職種チームにおいては、こうした潜在的な問題を回避するため、メンバー間での「懸念」や「想像」の共有を図るためのさまざまな工夫が用いられていることが明らかになってきた。しかし、こうした実践上の工夫にもかかわらず、やはり多職種間でのコンフリクトを完全に避けるのは難しい。そこで、本発表では、コンフリクト場面におけるメンバーのやり取りを対象に、技術レベルや組織レベルでの「異文化」コミュニケーションという観点からの考察を行っていく。

「どのように立場の異なる人々が医療にかかわるか、についての一考察：
『第三の立場』としての病院ボランティアの役割と貢献に着目して」

岩隈美穂（京都大学）

今日では「ボランティア」という言葉はすっかり日本社会で市民権を得ており様々な種類があるが、医療専門職者たちに交じって活動をする「病院ボランティア」もその一つの形態である。本研究では医療者と患者（とその家族）を中心に語られがちな医療をめぐるコミュニケーションの中で、非医療者である病院ボランティアに焦点を当てた。20年以上続いているNというボランティアグループの立ち上げ、継続の秘訣や今後の課題、病院ボランティアが医療者でもなく患者でもない「第三の立場」から医療に関わり、患者（やその家族）を支える様子をエスノグラフィーとインタビューを通して明らかにした。またとなく病院という環境の中では後回しにされがちな「遊び」や「楽しみ」が医療に与える影響や貢献の可能性について考える機会としたい。

地域の居場所と「立場を異にする者」同士の交流

谷美奈（帝塚山大学）・平本毅（京都大学）

「立場を異にする者」同士を結びつける社会的な試みとして、各種の地域の「居場所」（コミュニティカフェ、まちの縁側、地域の縁側等々とも呼ばれる）が増えてきている。「居場所」は高齢者、若年者、子育て中の親、精神障害者などの地域住民が集まり、自由な時間を過ごしつつ交流する場所である。多様な背景をもつ人々が集まるために、居場所ではしばしば、「立場を異にする者」同士を結びつける工夫がなされる。あるいは、「立場を異にする者」同士が関わったために、新たな居場所のサービスや価値が作り出されたりもする。本報告では居場所の現状と歴史、調査結果の紹介を行なった後で、具体的な居場所における「立場を異にする者」同士のかかわりの事例を報告する。